

第2回 第3期唐津市地域福祉計画進捗管理委員会 委員からのご意見・ご提案

○日時 令和2年7月16日(木) 14:00~16:40

○場所 唐津市役所第2委員会室

○進捗管理評価シートに対する委員からのご意見・ご提案

1. 福祉総合相談支援体制の整備

- ・専門用語はわかりにくいので、丁寧な説明をお願いしたい。
- ・たらい回しが多い。ワンストップの窓口で職員が来るような仕組みが必要。システム開発については、唐津独自にカスタマイズして見てはどうか。
- ・窓口は市民課の付近に必要。どこにあるか分からないでは困る。
- ・現在の庁舎でもできることはあると思う。
- ・評価について、具体的に数値目標を設定してほしい。具体的な数値がなく、検討中と続くのはどうかと思う。
- ・窓口を外部委託するにしても、それを管理できるスーパーバイザーのような職員の配置が必要ではないか。
- ・人が大事であり、研修を含めて人材育成を進めていく必要がある。

2. 生活支援体制整備事業

- ・地域協議体で実施した高齢者アンケートの結果に基づき、進めてほしいと思う。アンケートによって発展してほしい。

5. 小地域福祉活動推進事業補助金

- ・自己評価が高すぎるのではないかと。また、数値目標が示されていないのがある。
- ・地域によって福祉員の活動が違って、福祉委員の設置が100%であれば評価5で終わりということではないと思う。
- ・福祉員は民生委員・児童委員のサポート役であると、行政は考えているかもしれないが、そう認識されていない地域もある。福祉員に認識をさせる必要がある。行政連絡員、民生・児童委員、福祉員の任命権者が異なるためかもしれないが、連携するように市役所として促してほしい。

※民生委員・児童委員

厚生労働大臣による委嘱。民生委員は児童委員を兼ねることとされている。また、主任児童委員は、児童委員のうちから、厚生労働大臣が指名。

行政連絡員

唐津市長による委嘱。

福祉員

唐津市社会福祉協議会会長及び地区社会福祉協議会会長の連名による委嘱。

- ・先行事例を参考に連携を進めていただきたい。
 - ・福祉員未設置の地域には出向いてコミュニケーションを図る必要があるのではないか。
6. 民生委員・児童委員の活動支援
- ・取組内容には、運営・活動の補助、区域・定位数の見直し、研修の充実、経済的負担の軽減があるので、数値目標を追加してほしい。
 - ・民生委員・児童委員と福祉員の連携はとられていると思う。
 - ・独居老人については、シルバーボランティアでも見守りをされているので、連携されてはどうか。
 - ・地区の区長が民生委員・児童委員を使い、リーダーシップを発揮してほしい。また、独居老人が亡くなった場合、区長は住居に入れませんが、民生委員・児童委員は警察と入れるので、地区で役割分担をしてほしい。
7. 既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討
- ・市職員 OB は、地域に入って活動に取り組んでいる人が多い。市職員も早いうちから地域の活動に取り組んでほしい。
8. 学校・家庭・地域社会の連携強化
- ・地域の人材発掘が課題であり、保護者と地域住民・学校との関りで顔見知りになることが、地域の活性化になる。
9. 唐津市保健福祉ガイドブック（仮称）の発行
- ・自己評価が高すぎるのではないか。
 - ・わかりやすい内容のガイドブックを作成してほしい。
 - ・現在は市として「暮らしのガイドブック」を全世帯に配布しており、市のサービスを網羅している。詳しい制度は、個別のガイドブックを見てもらうことになる。福祉のガイドブックが全世帯に必要なのか、民生委員・児童委員に限るのか、発行をどうするか。この内容を評価シートに記載してもらいたい。
- 1 1. 民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援
- ・数値目標がないので必要ではないか。
- 1 3. 成年後見制度利用支援事業
- ・障がい者支援課の申立目標 1 件というのは低すぎるので、見直すべき。
 - ・成年後見をするとお金がかかるというのがネックになっている。関係団体の役員が研修会を受けて、後見ができるようになれば、費用を抑えられ件数が増えると思う。
 - ・潜在的虐待ということで、本人の年金を家族みんなが使うというケースがある。このことから成年後見制度は必要であると思う。

1 4. 避難行動要支援者名簿の活用と啓発

- ・要支援者名簿に載っている人で、支援できる家族がいる場合は、支援対象者から外してもいいのではないか。
- ・災害メールに登録していない民生委員・児童委員がおり、全ての人への一斉メールができないか。
- ・山際の地区、川沿いの地区などでレベル分けできないか。
- ・どういう支援が必要かということ由市は把握する必要があるのではないか。
- ・それぞれの地区に町内会長を中心とした連絡システムが必要ではないか。
- ・必ず避難が必要な人を名簿に落とし込めないか。
- ・町内のネットワークがとれている地区と、とれていない地区を確認することが目標になるのではないか。
- ・民生委員・児童委員の単位で避難訓練の確認ができないか。避難訓練を年2回するなどしないと現実的に役に立たないと思う。

1 5. 自主防災組織の設置促進

- ・自主防災組織未設置地区は、地域のリーダーを中心に早く設置してほしい。
- ・コロナの問題もあるので、県外のボランティアもあまり期待できない。地域のボランティアを含めて考える必要がある。

1 7. 個別計画策定（見直し）時における当事者の参画

- ・コンサルに頼り切りにならないようにしてほしい。

1 8. 住宅改修費の助成

- ・住宅改修器具等の技術が進んでいるなか、助成が1回きりなので、これまでの導入状況を調査し、必要があれば新たな支援を検討してほしい。
- ・唐津の住宅改修の比率は高いが、年間の助成金額を見ても、小規模な改修ばかりと思われる。
- ・福祉用具を使う必要があり、災害時の避難にもつながるので、唐津市障がい者支援センター（りんく）の設備をもっと活用してほしい。
- ・福岡市、北九州市のように唐津市でもセラピストを抱える必要があるのではないか。

2 2. 唐津市ボランティアセンターの運営支援

- ・自主防災組織との連携を強化したほうがいい。
- ・ボランティア講座数は、達成率167%となっているが、数値目標を見直すべきではないか。

2 4. 介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進

- ・これからの社会生活にはボランティア活動が不可欠である。介護ボランティア活動の1

時間単価を上げてほしい。

- ・校区社協の有償ボランティアが、西唐津、鏡で立ち上がっているのを、広げてほしい。

26. 認知症サポーター養成講座の開催

- ・「No.23」の市民活動支援センター「ステップ」と自立支援センターの活動がうまく機能するようにできないか。

○その他のご意見・ご提案

- ・コロナウイルス流行により策定当時に想定し得なかったことが、新しく生まれたのではないか。
- ・社協がフードエイドをしているので、体制づくりをしてほしい。
- ・民生委員・児童委員の会議でも、地域で困窮した人の話が出て、民生委員・児童委員が対応している。様々な困窮している人をサポートする機関があった方がよい。
- ・市役所からの情報伝達を円滑にするため、行政連絡員（地区会長）⇒民生委員・児童委員⇒福祉員といった呼びかけの順番を意識していただきたい。

以下余白